

第9期鳥羽少年探偵団

おおもとのべの

大伴部祢麻呂の足跡を探り
御食国の謎を解け

人材育成講座「地球塾」の特別講座として活動する「鳥羽少年探偵団」。
調査や体験学習を通して、鳥羽に関係がある偉大な人物、歴史、文化につ
いて学びます。

第9期目となる今年度は、市内5中学から13人の団員が集まりました。
今回は、平城京跡から見つけた木簡を手掛かりに「大伴部祢麻呂」「御
食国」をキーワードに調査します。

教育委員会生涯学習課

☎ 251268

T O B A
鳥羽少年探偵団
きょうみ しんしん とば
興味津々鳥羽の色。



第9期鳥羽少年探偵団のみなさん

上段左から寺本亜矢さん（鳥羽東中2年）、宇仁田舞歩さん（同）、松村妃爽香さん（同）、宮本紗良さん（同）、西井里奈さん（加茂中2年）、上村香鈴さん（同）、勢力瑠偉さん（答志中2年）、中村桜さん（同）、世古杏奈さん（鳥羽東中2年）、澤田美央さん（同）、下段左から岡田龍哉くん（鏡浦中2年）、大木信幸先生（明智小五郎役）、中村友幸くん（長岡中2年）、小崎聡次郎くん（同）

鳥羽を含む志摩国（現在の三重県東部志摩半島）は、古くから地元でとれる豊かな海産物を、税として当時の都に納めていました。

これらの品物を運ぶ際、木簡と呼ばれる墨で記された細長い木の板を荷札として使っていました。

木簡は、荷札のほか文書としても使われるなど、当時の生活の様子を知る貴重な資料となっています。

奈良県にある平城京跡からは多数の木簡が出土しており、「志摩国」と記載のあるものが89点見つかっています。

御食国とは

志摩国は都に納める税のほか、その豊かな海産物を「贄」として天皇家などに献上しており、若狭国（現在の福井県南部）や淡路国（現在の兵庫県淡路島、沼島）と並び、「御食国」と称されてきました。

大伴部祢麻呂とは

大伴部祢麻呂がどういう人物なのかは、謎に包まれています。

唯一確かなことは、木簡に記された史実だけです。

結団式&第1回学習会

第9期鳥羽少年探偵団の結団式と第1回学習会が、5月30日にミキモト真珠島真珠博物館ミュージアムホールで行われました。

結団式では、地球塾塾長である木田市長から13人の団員たちと明智小五郎役の大木信幸さんに任命書が授与されました。

団員たちは、今期の活動に向けて、「普通なら見過ごしていることや、鳥羽について知らないことを知りたい」、「みんなと仲良く協力していきたい」など、一人ずつ抱負を語りました。

結団式の後の第1回学習会は地球塾と合同で行われ、地球塾塾頭で南山大学の目崎茂和教授とミキモト真珠島真珠博物館の松月清郎館長から「御木本幸吉と真珠」について、お話をいただきました。

目崎教授からは、「グローバルな、世界に通用する人になるため、歴史を学び、考え、未来に向かってどうしたらよいかを見出して、世界に目を広げていってほしい」と、今期の活動の目標を示していました。

松月館長からは、「学習の成果というのは、普段見慣れたものが違うように見えてくることで、そこに勉強する意義があり楽しみがある。もう一歩進んで自分が知ったことを他人に伝え、他人だけでなく自分のプラスアップにもなる」と、学習に望む心構えを示していただきました。

午後からは会場を移し、自己紹介を兼ねたオリエンテーションと今期の指令の記された木簡の内容を読み解いていただきました。

団員たちは、初めて会ったとは思えないほど打ち解けた雰囲気の中で、活発な意見交換を行い、学習会を終えました。



- ① 結団式で任命書を受け取る団員
- ② 学習会の講師、南山大学の目崎教授
- ③ 同じく講師のミキモト真珠島真珠博物館の松月館長
- ④ 第2回学習会の講師、海の博物館の平賀学芸員
- ⑤ 木簡について、話し合いをする団員たち
- ⑥ 調査の手掛かりとなるものを真剣に探しています



第2回学習会

第2回学習会は、「御食国」の姿を探るため、浦村町にある海の博物館を訪ねました。学芸員の平賀大蔵さんを講師にお迎えし、木簡のことや志摩国の豊富な海産物のこと、海の環境の変化などについて、お話ししていただきました。平賀さんからは、「不思議に思うことから疑問を探していき、団結してその謎を解いていくてください」と、励ましの言葉をいただきました。お話を聞いた後、団員たちは、海の博物館に展示されて

いる漁具や資料を熱心に見学し、御食国に関する手掛かりを探しました。



第2回学習会で学んだことをみんなで話し合いました

鳥羽少年探偵団の今後のスケジュール

- 第3回学習会 8月
志摩国の海の恵みを調査（答志島）
- 第4回学習会 10月
海女資料館、熨斗アフビづくり見学（国崎町）
- 第5回学習会 11月
県外調査（奈良県）
- 第6回学習会 12月
まとめ（市内）
- 第7回学習会 3月
調査報告発表（市内）

団員たちが読み解いた木簡の内容

現在の答志町和具の難設里に住む家の主、大伴部祢麻呂さんと大伴部羊さんが、御調（税）としてワカメ 3.6 kgを、養老7年（723年）の6月に納めた。

- ※1 地名（和具郷は、現在の和具よりも広い範囲）
- ※2 里の名前と思われる（読み方不明）
- ※3 人名（同じく大伴部の羊さん）
- ※4 当時の税の一つ。ほかに祖・庸がある
- ※5 重さ 3.6 kg（斤は、時代・地方により異なる）
- ※6 旧暦なので、現在の6月に当たる

志摩国答志郡和具郷難設里戸主大伴部祢麻呂
 ※1 ※2 ※3 ※4 ※5 ※6
 同羊御調海藻六斤
 養老七年五月十七日

